

夏咲きぎくの雨よけ栽培における日持ち向上のための栽培管理法							
【要約】 <u>夏咲きぎくの雨よけ栽培</u> において、施肥量、灌水量及び石灰施用等の栽培管理を適切に行うことにより、切花の <u>日持ち</u> が向上する。							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	裁 培	対 象	花き類	分 類	普及

【背景・ねらい】

雨よけ栽培をはじめとするきくの施設栽培は、品質や病害防除等の点から露地栽培と比較して有利なため、県内において拡大する傾向にある。従来から、露地栽培においては降雨時の排水不良が切花の品質低下の主たる要因とされてきたが、施設栽培では、定植時の密植、生育中の灌水量不足によると考えられる切花の日持ち低下や花茎の伸長不良等が指摘されている。そこで、雨よけ栽培において、切花の日持ちや品質に影響する施肥量、仕立て本数、灌水量及び石灰施用量を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①施肥量は、多肥ほど水活け後の葉の萎れや花卉の褐変が増加する。また、窒素、リン酸、カリがそれぞれ30kg/10aを超えると葉の黄化が早くなることから、施肥量は3要素とも30kg/10a以下とする（表1）。
- ②仕立て本数が40～60本/㎡の範囲では、日持ちに及ぼす仕立て本数の影響は少ない（表1）。
- ③灌水量は、定植30日後から切花時まで極端な乾燥を避けるように管理する（土壌pF値が1.9～2.1の範囲）と切花長が長くなり、日持ちがよくなる（表2）。
- ④定植前の土壌pHが低い場合は、炭酸苦土石灰の施用効果が大きい（表2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①夏咲きぎく産地における品質向上技術として活用する。
- ②灌水は圃場における作土の深さや保水性、天候等を十分に考慮して適度に行う。
- ③炭酸苦土石灰は土壌pHが6前後となるように適正量を施用する

[具体的データ]

表1. 施肥量及び仕立て本数ときくの開花時の形質並びに切花後の日持ち(平成2年)

施肥量	仕立て本数	開花日	切花長	切花重量	水活け8日後の品質		
					葉黄化	萎れ	花弁の褐変
多肥	本/㎡	月/日	cm	g			
	40	8/11	73	72	2.3	2.3	2.0
	50	8/11	71	68	2.4	2.2	1.4
	60	8/12	73	66	2.6	2.0	2.1
中肥 (標準)	40	8/10	73	70	2.1	2.1	2.3
	50	8/10	70	62	2.0	2.1	2.1
	60	8/9	70	53	2.2	1.7	1.3
少肥	40	8/5	68	57	1.3	1.0	1.0
	50	8/5	69	54	2.2	1.4	0.8
	60	8/6	67	47	2.0	1.3	0.8

注)① 施肥量 (N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O) は多肥=45:45:45kg/10a, 中肥=30:30:30kg/10a  
少肥=15:15:15kg/10a

② 品種は'46号', 平成2年4月27日定植, 5月7日摘心

③ 日持ち調査は4分咲きで切花して60cmの長さに切り揃えた後、常温下で調査した。

④ 品質評価はそれぞれ 0=無、1=軽、2=中、3=甚とした。

表2 灌水量及び石灰施用量ときくの開花時の形質及び日持ち日数並びに灌水直前における土壌pF値(平成3年)

灌水間隔	土壌pF値(平均)	石灰施用量 kg/10a	開花日 月/日	切花長 cm	切花重量 g	日持ち日数 日
		100	7/16	81	85	7
		200	7/16	81	87	9
		300	7/17	84	85	10
4日おき	2.54	0	7/21	86	88	7
		100	7/21	83	88	10
		200	7/20	82	80	11
		300	7/20	84	82	10
2日おき	2.13	0	7/24	94	80	9
		100	7/24	93	81	11
		200	7/24	92	81	11
		300	7/25	92	80	12
毎日	1.90	0	7/31	95	80	14
		100	7/30	93	80	16
		200	7/29	98	82	17
		300	7/30	100	82	16

注)① 品種は'46号', 平成3年3月29日定植, 4月8日摘心

② 石灰は炭酸苦土石灰を使用(施用前の土壌pH=5.54)。施肥量はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=25:20:25kg/10a, 仕立て本数は45本/㎡

③ 日持ち日数は、観賞価値がなくなるまでの日数

[その他]

研究課題名: 栽培条件と鮮度保持

予算区分: 県特

研究期間: 平成4年度(平成2~4年)

研究担当者: 谷川孝弘、小林泰生、坂井康弘、近藤英和

発表論文等: 平成2~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書